

本研修の狙いと前回／本日のプログラムについて

～事業担当者と認知症地域支援推進員の協働による施策の推進～

(内容)

1. 事業マネジメントのあるべき展開方法と現状・課題
2. 第1回研修会の狙いとプログラムについて
3. 第2回研修会の狙いとプログラムについて

埼玉県立大学大学院／研究開発センター
川越雅弘

1. 事業マネジメントのあるべき展開方法と 現状・課題

本来求められている事業展開の方法とは

－厚生労働省「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引きより」－

- 課題とは、「目指す姿」と「現状」のギャップのこと。マネジメントとは、様々な対策により、現状を目指す姿に近づけること（＝課題を解決すること）である。
- 様々な対策の中から、効果的な対策を選択するためには、現状を引き起こしている要因や原因をおさえる必要がある。これを「要因分析」という。これら分析を通じて、**より結果的な対策を関係者で検討・選択し、実行していく**ことになる。
- 課題解決に向けた一連の展開手順を示したものが「PDCAサイクル」で、①課題設定(Step1～3)、②効果的な対策の検討・実施(Step4～6)、③評価(Step7)から構成される。

マネジメントの構造とは

【Step1】目指す姿の設定
(目標・ゴール)

【Step7】効果確認
・対策によって、現状が目指す姿にどの程度近づいたかを確認するために、**何らかの指標を置いて確認する。**

【Step3】課題の選定
・両者のギャップから課題を抽出した上で、**課題の具体化と取り組むべき課題の選定を行う。**

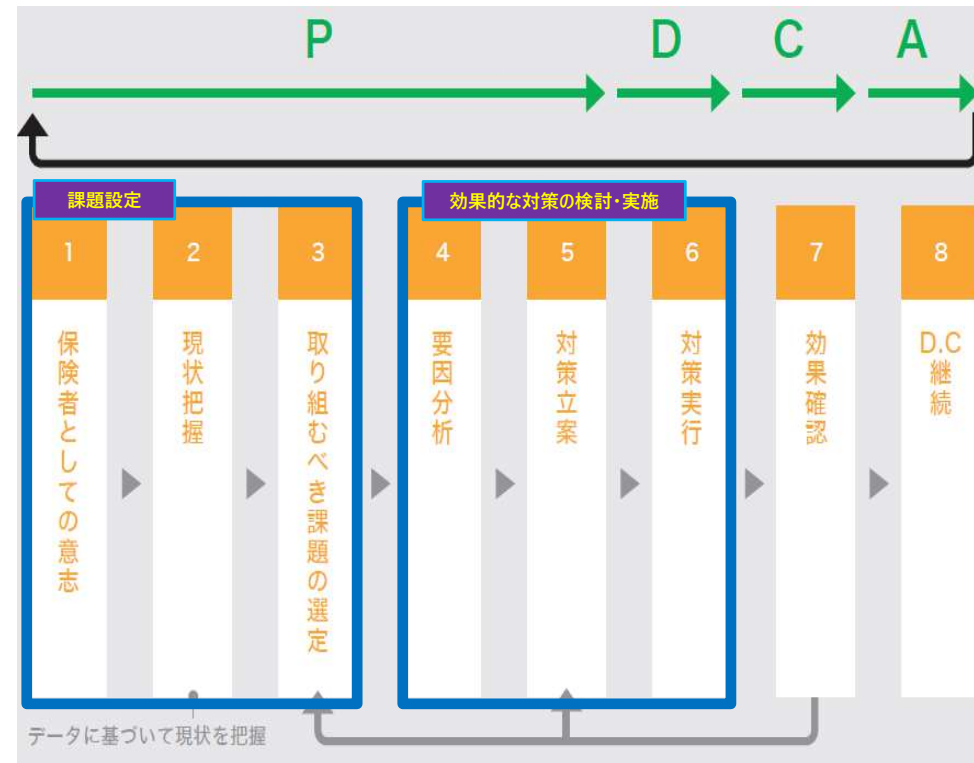
【Step4】要因分析
・効果的な対策を実行するために、現状を引き起こしている**要因の分析を、関係者と一緒に**行う。

対策 (= 取組) の実施

【Step5・6】対策立案・実行
・現状を目指す姿に近づけるために、**関係者で対策を検討・選択し、実行する。**

【Step2】現状把握

PDCAサイクルとは



現行計画の施策体系とその問題点

(現状把握が不十分／課題が抽象的／各施策を行うこと自体が目的化)

【目指す姿】 住み慣れた自宅や地域で、本人らしく暮らし続けられるまち

【基本目標①】

健康で自立した生活を送ることができる

【施策①】

健康づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策②】

介護予防の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策③】

地域づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策④】

認知症施策の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑤】

介護サービスの充実

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑥】

医療介護連携の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

国の手順と何が違うのか？

- 基本理念や目標は設定しているが、①理念・目標に関する現状分析(例:在宅生活が困難になった人はどれ位いるのかなど)、②要因分析(例:なぜ在宅生活が困難になったのかなど)が不十分である。
- 課題が抽象的なままで、具体化されていない。また、課題間の相互作用の確認、優先順位付けを行わないまま全ての課題に対応しようとしている。
- 「効果的な対策をどう打つか」よりも、国から示された各施策を「どのように展開するか」に意識が向いている。また、各施策がバラバラに検討されている(各施策を連動させて課題解決に結びつける発想になっていない)。

2. 第1回研修会の狙いとプログラムについて

—当事者の意向を知る／他市の展開プロセスを学ぶことで、
事業の展開イメージを高める—

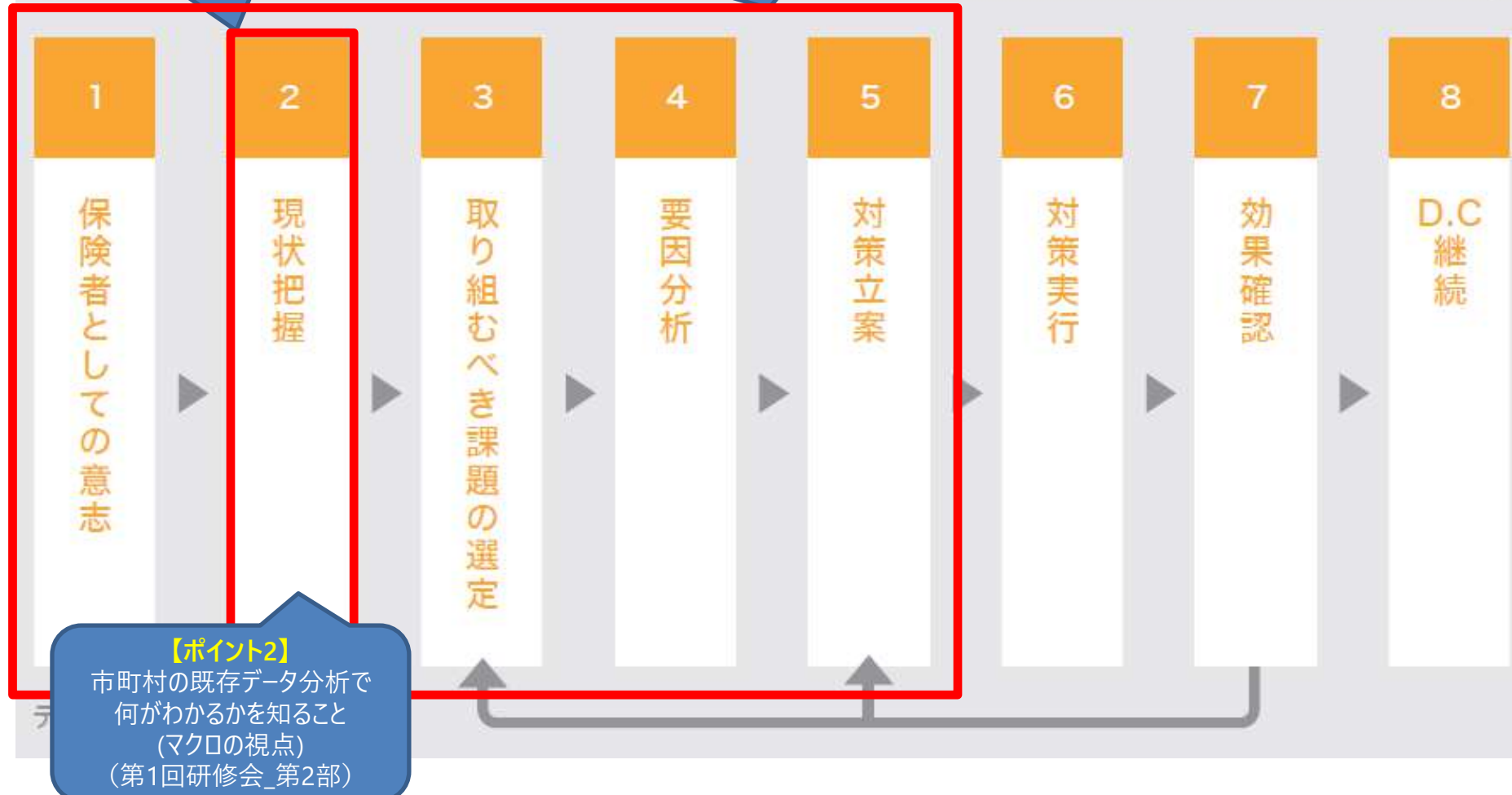
現状をあるべき展開方法に近づけるための強化ポイント(第1回研修会)

【ポイント1】

効果的な本人／家族支援策を展開するために、当事者や家族の声をまず知ること
(ミクロの視点)
(第1回研修会_第1部)

【ポイント3】

当事者や家族の声、現場の声を踏まえながら施策を検討している自治体の思考及び展開プロセスを知ること
(第1回研修会_第3部)



第1回研修会のプログラム

公開方法

WEB シンポジウム

日時

2024年1月11日(木) 9:15 ~ 12:00

テーマ/
プログラム

— 当事者・家族の声を踏まえた施策の展開方法を学ぼう —

第1部

講演

認知症当事者や家族の意向や支援ニーズを知ろう (仮称)

認知症介護研究・研修東京センター センター長 栗田圭一 氏

公益社団法人 認知症の人と家族の会 副代表理事・埼玉県支部代表 花俣ふみ代 氏

第2部

講演

認知症高齢者の実態を既存データから知ろう (仮称)

埼玉県立大学大学院/研究開発センター 教授 川越雅弘

第3部

講演

当事者や家族の声をもとに施策を展開している実例から学ぼう (仮称)

さいたま市いきいき長寿推進課介護予防係 主査 松尾真二 氏

稲城市高齢福祉課地域支援係 係長 飯野雄治 氏

第4部

シンポジウム

認知症当事者・家族の支援ニーズに沿った事業を展開するために

第4部は、第1部から第3部の登壇者を中心に、議論を深めます (司会: 川越雅弘)

3. 第2回研修会の狙いと内容

ー協働作業の具体的進め方のイメージを高めることー

地域課題解決に必要な要素／展開プロセスと関係者の役割

—なぜ、認知症当事者の実態を知る人と施策を動かす人の協働が必要か？—

目指していること(ゴール)

- 認知症高齢者が、住み慣れた自宅や地域で、本人らしく暮らし続けられること。

ゴール達成に必要な要素と展開プロセス

I. 現状把握と地域で解決すべき課題の選定

- 【要素1】個々の認知症当事者が抱える課題(=個別課題)やニーズが把握できていること(推進員等)
- 【要素2】個別課題を俯瞰しながら、地域で解決すべき課題がイメージできていること(事業担当者)
- 【要素3】事業担当者と推進員等が情報交換・意見交換しながら、地域で解決すべき課題(テーマ)が抽出・選定されていること(事業担当者+推進員等)

II. 対策の検討・実行・進捗管理

- 【要素4】課題解決に向けた体制が検討されていること(事業担当者)
- 【要素5】検討会議にて、①目指す地域の姿、②現状、③解決すべき課題を共有した上で、課題解決に向けた対策が検討されていること(事業担当者、推進員も参加)
- 【要素6】進捗状況を確認し、対策の見直しを行うことができること(事業担当者+推進員等)

【地域課題解決に向けた事業の展開プロセス】



事業担当者と推進員等の協働を促すために必要なこと

1. 地域の目指す姿に対する互いのイメージ、各施策の目的意識が揃っていること

- ✓ 地域がどうなることを目指して、認知症施策を推進するのか？（=理念）
- ✓ 各施策は何のために行うのか？（=各施策の目的意識）

2. 「地域で解決すべき課題は何か」が共有できていること

- ✓ 地域で解決しないといけない課題とは何か？（=課題認識）

- ・方法1：個別事例から、地域課題を考える
- ・方法2：事業担当者と推進員等が意見交換しながら地域課題を考える

- ✓ 優先順位の高い課題とは何か？

3. 課題解決に向けたシナリオが共有できていること

- ✓ ゴールと当面の目標をどこに設定するか？
- ✓ 現状・課題を生じさせている原因は何か？
- ✓ 課題解決に向けて、どのような対策が考えられるか？
- ✓ 各施策をどう組み合わせながらゴールまで達成するか？

第2回研修会のプログラム

公開方法	Zoom ミーティング	定員	150人 (先着順)
日時	2024年3月6日(水) 9:30 ~ 16:00		
プログラム	<p>市区町村担当者と認知症地域支援推進員が協働しながら 施策を考える方法を身に付けよう!</p> <p>午前の部 (9:30 ~ 12:00)</p> <p>【講義1】 前回の振り返り 【意見交換1】 ・テーマ1：本人の意向の把握方法について ・テーマ2：認知症サポーターの養成・活用方法について</p> <p>.....</p> <p>午後の部 (13:00 ~ 16:00)</p> <p>【演習2】 施策の目的を考えよう 【演習3】 解決すべき具体的なテーマを挙げてみよう 【演習4】 事業を連動させながらゴール達成を目指そう 【意見交換2】 認知症施策の今後のすすめ方を考えよう 【講義3】 まとめ</p> <p>現在の対策 協働方法の体感 対策の見直し</p>		